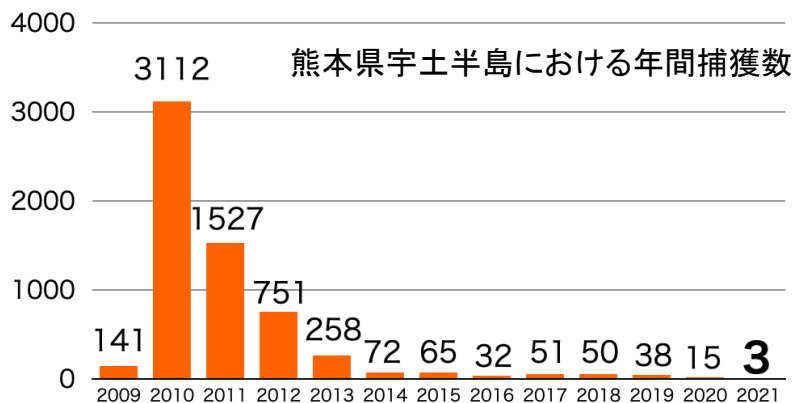
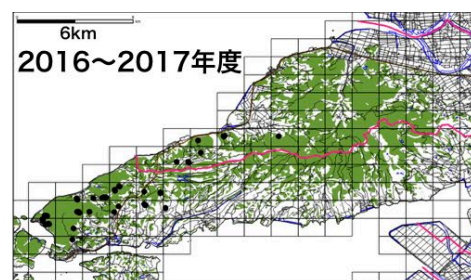
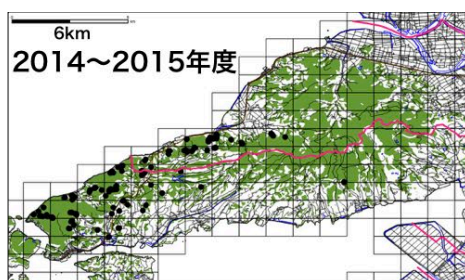
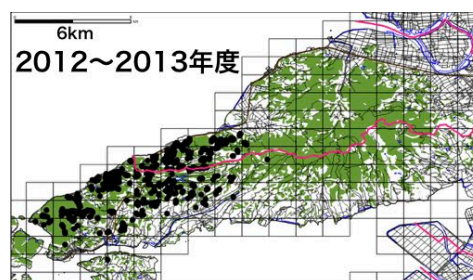


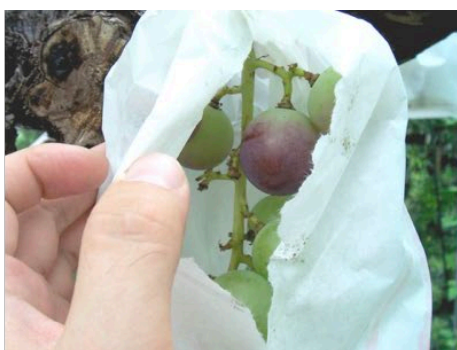
人間によって東南アジアから日本に持ち込まれた外来リス(クリハラリス、別名タイワンリス)が熊本県宇土半島に定着しています。このリスは農林業や生態系に大きな悪影響をおよぼすことから、特定外来生物に指定されています。環境省による確認・認定を受けた行政機関等が、地域根絶を目標として防除(捕獲)を行っています。



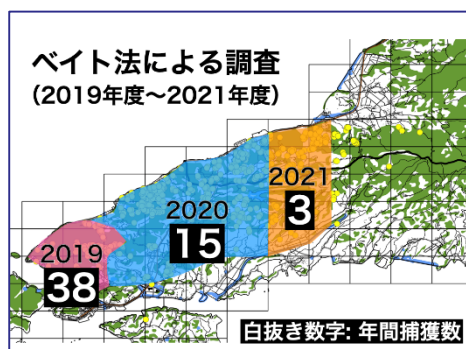
熊本県宇土半島では13年以上にわたる継続的な取組により捕獲数が大きく減りました。



熊本県宇土半島における外來リスの捕獲地点(●)。バスターズ(捕獲専門員)による探索と捕獲が続けられています。



熊本県宇土半島では、外來リスの増加により、かんきつ類やブドウなどの果物、造林木の被害が発生していましたが、防除が進み、現在ではほとんど被害がなくなりました。しかし、防除の手をゆるめるとまた数が増えてしまうため、地域根絶を最終目標として取組を続けています。



毎年秋から冬にかけてベイト法(えさを使って外來リスを発見する方法)による調査を実施し、残存個体の探索と捕獲に努めています。

謝辞: 熊本県宇土半島における外來リス防除は、宇土半島におけるタイワンリス防除等連絡協議会(熊本県宇城地域振興局)のもと、環境省・熊本県・宇城市・宇土市・JA・猟友会と(国研)森林研究・整備機構が連携して実施しています。本研究の一部は(独)環境再生保全機構の環境研究総合推進費「侵略的外來哺乳類の防除政策決定プロセスのための対策技術の高度化」(JPMEERF20204006)により実施されました。